

最終予選で65人が激戦繰り広げた!!

# 田島鈴木トツプ

「第53回報知キス釣り選手権・SESSYA CUP」愛知予選が5月26日、愛知・田原市の堀切海岸で65人が参加して行われた。競技時間は午前6時から4時間。釣ったキスの尾数を競った。この日は波が高く、波打ち際に漂う藻に悩まされる釣りづらい状況だった。審査結果は、田島雅倫(あしまのり)選手(うみかぜサーフ)と鈴木涼選手(河合塾)が13尾でトップ、右高久徳選手(やしの美サーフ)が12尾で続き、7位タイまでの上位12人が勝ち上がった。予選は全日程が終了し、3会場から計28人が決勝大会(9月4日、徳島・北の脇)に名乗りを上げた。



愛知予選を突破した(前列左から)原田、津上、渡辺、右高、鈴木、田島(後列左から)猪熊、岡村、神崎、小島、藤原、吉浜の各選手が集まった。

◇愛知予選の通過者◇

名	所属クラブ	尾
前	藤原	13
田島	うみかぜサーフ	13
鈴木	河合塾	13
右高	やしの美サーフ	12
津上	やしの美サーフ	12
渡辺	やしの美サーフ	12
猪熊	やしの美サーフ	12
岡村	やしの美サーフ	12
神崎	やしの美サーフ	12
小島	やしの美サーフ	12
藤原	やしの美サーフ	12
吉浜	やしの美サーフ	12

▽予選通過人数、基本的に参加者数の上位1割とし、端数は繰り上げ。今回は65人中、7位タイまでの12人が決勝大会進出の権利が与えられた。

大会前日は、波が高く海に濁りが入っていたが、当日は波も濁りも少し改善されていた。心配した先客のルアーマンも少なく、好天の下で予選会が行われた。

今年もキスの釣果が安定していないので多少の心配があったが、競技が開催されるとその不安は消し飛んだ。場所によってはダブル、トリプル釣果があり、20尾近いキスが釣られた。

競技開始は午前6時、同7時少し前にエリアの左端から見て回ると、すでに4尾のキスを釣った選手が数人いた。聞くところ、この日のヒットポイントには遠く、5色から7色(色目は25cc)で、選手によっては8色で釣っていた。人岩から少し右側は、近くレンジキスがヒットするが、手前にゴミが多くて苦戦していた。

右エリアへ移動すると、飛ばし屋たちが集まったポイントがあり、7色から9色投げて釣果を挙げている。目立ったポイントはその辺りまで、エリアの右端近くでは釣果に恵まれていなかった。今回は全体的に外道のレンジキス(愛知県の方言でセンチ)などが少

すも交じって、選手はキスのアタリを楽しんでいた。いつものことだが、1尾でも多くのキスを釣ると競技時間をフルに闘うトーナメントたちに敬意を表す。

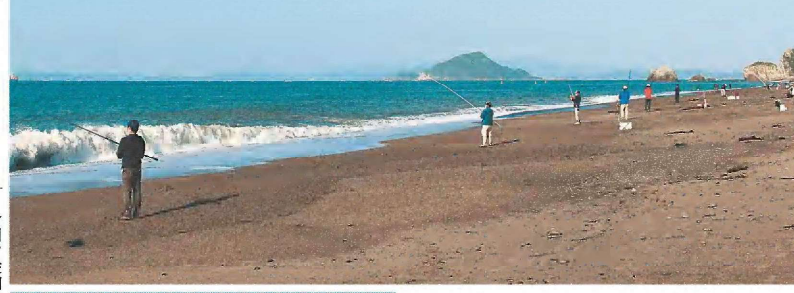
餌と遠投力も兼ねて、餌はシゴカイとチロリだった。しかし、そのチロリが今年は入手しづらく、使いたいが断念せざるを得なかった選手が多かった。印象としては、チロリをうまく入手し、超遠投した選手が有利だったと思える。

今回、愛知会場からは7位タイまでの12人が名を挙げた。9月4日に徳島・北の脇で開催される決勝大会を期待する。3年ぶりに選手権・名人戦が開催されれば、釣技の向上と発展につながるものと思っている。(報知APG・野村道雄)

## 好天での開催



「報知キス釣り選手権・SESSYA CUP」最終予選となる愛知予選が、愛知・田原市の堀切海岸で開催された。東海地区や関東でもキス釣りの人気は非常に高く、地元の愛知、静岡のみならず東京や千葉などからのエントリーもあり、合計65人のキス釣り愛好者が集まった。



▲▲、東西に延びる約2キロのエリアで選手たちは決勝進出を懸けてキスを狙った【上】太平洋ヘルキャストの遠投力の差が釣果の暗を分けた

## 餌と遠投力

餌と同時に関心する選手も多かった。定番はシゴカイとチロリだったが、そのチロリが今年は入手しづらく、使いたいが断念せざるを得なかった選手が多かった。印象としては、チロリをうまく入手し、超遠投した選手が有利だったと思える。

今回、愛知会場からは7位タイまでの12人が名を挙げた。9月4日に徳島・北の脇で開催される決勝大会を期待する。3年ぶりに選手権・名人戦が開催されれば、釣技の向上と発展につながるものと思っている。(報知APG・野村道雄)

今回、愛知会場からは7位タイまでの12人が名を挙げた。9月4日に徳島・北の脇で開催される決勝大会を期待する。3年ぶりに選手権・名人戦が開催されれば、釣技の向上と発展につながるものと思っている。(報知APG・野村道雄)

今回、愛知会場からは7位タイまでの12人が名を挙げた。9月4日に徳島・北の脇で開催される決勝大会を期待する。3年ぶりに選手権・名人戦が開催されれば、釣技の向上と発展につながるものと思っている。(報知APG・野村道雄)

今回、愛知会場からは7位タイまでの12人が名を挙げた。9月4日に徳島・北の脇で開催される決勝大会を期待する。3年ぶりに選手権・名人戦が開催されれば、釣技の向上と発展につながるものと思っている。(報知APG・野村道雄)



背中の文字が物語る。高い波と風海の濁りなど悪条件が重なり、我慢の釣りを強いられた選手も多かった。